

市長	副市長	教育長	教育次長	課長	課長補佐	係長	記録

【所属名：市教育委員会事務局生涯学習課図書館係】
【会議名：第3次糸魚川市子ども読書活動推進計画
第1回策定委員会】

開示
一部開示 (理由:条例第 条第 号 該当)
不開示
時限不開示 (開示: 年 月 日)

会議録

作成日 令和5年10月2日(月)

日	令和5年9月27日(水)	時間	10:00 ~12:00	場所	糸魚川市民図書館 視聴覚室
件名	(議題) 第3次糸魚川市子ども読書活動推進計画の策定について				
出席者	【出席委員】 11名 (敬称略) 辻村 貴洋、関原 和人、小山 智穂、福原 政子、磯谷 芳子、朝日 仁美、 伊藤 麗美、川合 真生、富澤 博子、川合 弥嘉、山本 裕美 【事務局】 生涯学習課：山本課長、伊藤課長補佐、七澤主査、大西主任主事 こども課：山岸園長、山中センター長				
	傍聴者定員	5人	傍聴者数	0人	

会議要旨

進行：事務局

- 1 開会 (10:00)
- 2 挨拶 課長
- 3 自己紹介
- 4 正副委員長選任
- 5 協議(グループワーク) テーマ：第3次子ども読書活動推進計画素案の内容について
 - Aグループ【資料2】「家庭、地域」について
 - Bグループ【資料2】「幼稚園・保育園、学校」について
 - Cグループ【資料1】および、【資料2】「図書館」について

発表

(Bグループ)

現状の課題として、大きくまとめて「施設、設備、行政サービスの問題」「学校の問題」「子どもの特徴」「親の特徴」「地域」「障害への配慮」「調査、研修」に対する課題が挙げられた。

今まで糸魚川市は乳幼児健診時など生まれてからの健診でブックスタートなどのアプローチをしてきたが、生まれる前の妊婦健診の時に啓発するという意見が出た。まだ子育てが始まる前

の気持ちに余裕があるうちに読み聞かせをしてもらって、「いい気持ちだ」「読み聞かせてって良いな」と感じてもらう機会を作ると良いと思う。

また、「本を読まなきゃいけない」じゃなく、音楽や映画など色々なところからの本へのアプローチが必要。昭和の人間が思う本へのアプローチではなく、令和のアプローチに頭を変えていかなければならないという意見が出た。

(Cグループ)

図書館のイベントや掲示がとても良くなっているが、行かないと分からない状態。もっと PR したら良いと思う。

図書館の環境でいうと、静かなところを好む人もいるが、今の子は音や少し音楽が鳴っていても良い。その区別ができれば。自習室も今どきの自習室を考えなければいけない。

また、意外と知られていないのが、団体貸出ができるということ。もしかしたら個人でも県の図書館から借りられるサービスを知らない人がいるかもしれない。そういったところを PR できたら、お母さんたちが「昔読んだあの本を読みたい」といったことが叶い、子どもの読書にも繋がっていくのでは。

また、小学校の中でも6年生が1年生に読み聞かせしたり、キャリア教育で読み聞かせしたり、高校生も将来のために読み聞かせをやりたいわという子どもたちもいたりするので、読み聞かせの人材育成ができれば良いと思う。

(Aグループ及び委員長総括)

最大の課題は、市民の実態が分からないということ。保護者、小学生、中学生、高校生、幼稚園、保育園に通っている子たちがそれぞれ本や読書についてどういうニーズを持っているかということ把握しない限り、状況を改善する計画を立てることは難しい。

アンケートとあったが、誰に何を聞きくべきかを考えるのが大きな課題。その上で、今現在糸魚川市にはこういう人たちがいて、こういう団体があって、というのを整理して、それぞれをどういう方向に持っていくのかという全体のビジョンを示していかないと、その下の具体的な計画というところに繋がらない。

第2次計画の資料編に利用状況や蔵書冊数が載っているが、こういう数字が読書計画の推進にとって何か意味のある指標になるかということ、これだけ見てもやっぱり分からないということもあるの。委員の皆さんにはご負担かもしれないが、せつかくここに集まっているので、利用されている方々がどのように本に触れているかという部分を確認してもらいたい。その上で全部の情報を集約しながら整理していくという作業が今後必要になってくる。でもそれは計画策定までに必要な作業ではなくて、そのこと自体をこの第3次の計画の中で進めていきたいと思いますというスケジュールを設定していくという発想が必要だと思う。

また、家庭、地域、園、学校、図書館というカテゴリーの分け方についても検討が必要ではないかと思う。きっと子どもが図書、読書に触れあう順番として、家庭から始まり、幼稚園、保育園、学校という風に進んできていると思うが、0歳から18歳までの各世代への取組とした方がこども一貫計画とも整合性が取れるのではないかと思う。対象になる年齢層別に、このくらいの時期にはこういうサポートが必要で、保護者にはこうで、地域の人たちにはこう、学校はこういうことをやっていて、図書館としては市全体でこういうことをやっているという組立が必要。

また、専門性の問題もある。どのタイミングでどういう図書を選んだら良いのか、選書の考え方や、良い本ってどういう本を言うんだらという考えは一人ひとりばらばら。今これについて委員の皆さんが領いていらっしゃるように、皆さんのような実践者がただ交流する場が定期的に必要だと思う。お互いに課題や問題意識を共有して、これだったらこういうことがあったよという意見交換をする場が少なくとも年に一回程度必要。また、別の機会に顔を合わせることもあると思うが、その時にお互いの活動を見たり、共有するといったことが必要ではないかと思う。

- 6 委員長総括（上記のとおり）
- 7 その他 次回委員会日程について
- 8 閉会（12:00）